

ヒートアイランド現象を緩和する建築物被覆技術を用いた 環境技術のモニター実証を実施しました。

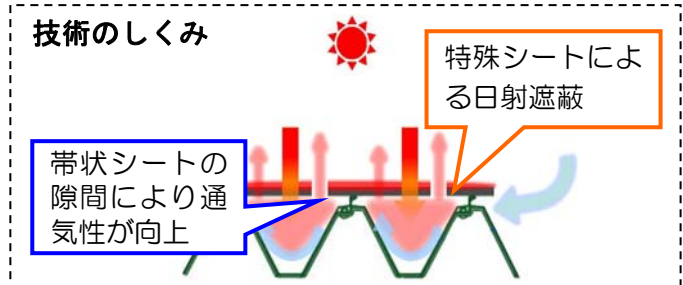
「ルーフシェード」

モニター実証について

大阪府環境農林水産総合研究所では、中小企業等が開発した先進的な環境技術について技術評価し、その普及を支援する『おおさかエコテック（環境技術評価・普及事業）』を行っています。
また、評価技術を広くPRするとともに利用ニーズを探るため、大阪府等の公共部門がモニターとなり、環境保全や利用性を実証する『モニター実証』を実施しています。

実証技術について

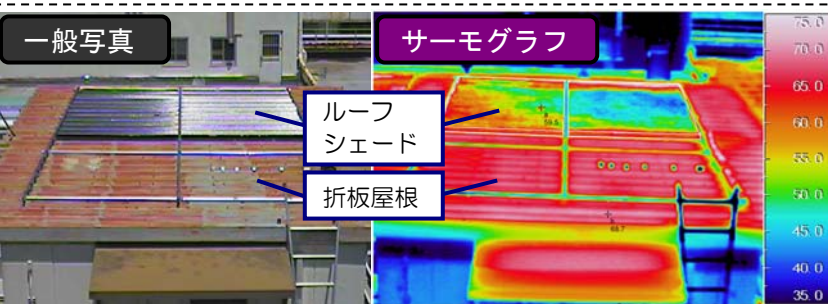
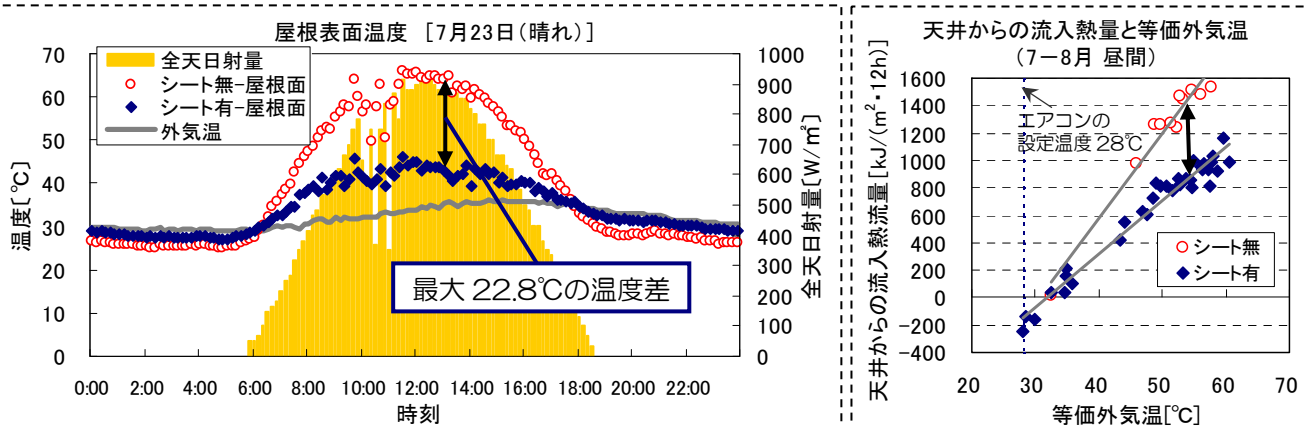
技術名：折板屋根向け外断熱・遮熱工法
「ルーフシェード」
開発者：日本ワイドクロス(株)
実証場所：大阪府大気汚染常時監視局
(府内2箇所)
実証期間：平成22年5月18日～
平成23年3月22日



実証結果 国設大阪大気汚染常時監視局（環境農林水産総合研究所屋上）におけるデータ

サーモグラフ並びに屋根表面温度測定の結果、ルーフシェード（グラフ中シートと表記）を設置することにより屋根表面温度が下がりました。

また、ルーフシェードの設置により、天井から建屋への流入熱量が抑えられることが確認され、建屋内の冷房負荷が軽減されることが考えられます。



↑グラフは、日中 12 時間における天井面 1 m²あたりの流入熱量の測定結果。
※等価外気温：気温に日射の影響を加味したもの。

<実証データ測定機関>
大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻
建築・都市環境工学領域（開発者の協力機関）

【お問合せ先】大阪府環境農林水産総合研究所 研究調整課 06-6972-7634
日本ワイドクロス(株) 本社営業部 072-971-5144